

(5) 教育機関における活用事例

A 養護学校において 2 年間の試行を実施している。対象は、知的障害、身体障害、知的障害を伴う自閉症が主で、一部高機能自閉症や LD、ADHD の生徒も含まれている。中には脳梗塞の後遺症により、高次脳機能障害に類似した記憶の障害や感情のコントロールが難しいケースもある。

これらの各ケースに対してトータルパッケージを実施した状況を表 2-4 に示す。主に活用しているのは MWS で、一部、M-メモリーノートや Wisconsin Card Sorting Test（以下、「WCST」という）を実施している。授業や校内実習、進路指導、移行支援、卒業後支援のツールとして活用してきた。以下、活用場面別に事例を紹介する。

表 2-4 トータルパッケージの実施状況

活用場面		活用したツール	LD等	自閉症	身体障害	知的障害	脳梗塞後遺症
授業等	学級指導	Wisconsin Card Sorting Test	○			○	○
		M-メモリーノート(改良型)			○	○	○
	数学	実務課題: 重さ計測		○			
	自立活動	MWS 実務課題: プラグタッパ組立		○		○	
	作業学習	WS OA課題: 文書入力		○			
	放課時間	WS OA課題全般			○	○	
	家庭学習 自習課題	HW 版 事務課題: 宛名書き	○			○	
		HW 版 事務課題: 家計簿作成	○			○	
校内実習	パソコン班	MWS OA課題 数値入力	○	○	○	○	○
		MWS OA課題 文書入力	○	○	○	○	○
		MWS OA課題 コピー＆ペースト	○	○		○	○
		MWS OA課題 ファイル整理	○				
		MWS OA課題 検索修正	○	○		○	
	事務班	MWS HW 版 事務課題: 数値チェック	○	○	○	○	○
		MWS HW 版 事務課題: 宛名書き	○	○	○	○	○
	ナプキン班	MWS HW 版 実務課題: ナプキン折り	○	○	○	○	○
		MWS HW 版 実務課題: 洗濯物たたみ	○	○	○	○	○
進路指導 卒業後・移行支援	自立活動	MWS 事務課題: 数値チェック				○	
		MWS OA課題全般	○			○	
		MWS 実務課題全般	○			○	
	自宅	HW 版 OA課題全般	○				

(注) LD等 = LD・ADHD・高機能自閉症等、自閉症 = 知的障害を伴うもの

高等部 1 年生の学級指導で、2 学期より試行的に導入した。従来から各学級では、生徒の実態に応じた形式により、日課確認や家庭との連携のため、「連絡ノート」を使用している。しかし自律的な活用が充分なされているとはいえない。困難だった。

特に「忘れてはいけないこと」
には、各生徒の課題となっている
ことを記入させ、セルフチェック

肢体不自由のある生徒に「毎日帰宅後ストレッチをする」という課題を、一学期間は口頭指示では定着しなかったが、M-メモリーノートでセルフチェックを始めると、ほぼ定着するようになってきた。

その他、口頭での注意では不適切な言動が改善されない事例について、導入を検討している。

活用の般化には、時間を要することになりそうであるが、生徒の取り組みは良い。

[illegible]

「大切メモ」は今後使用予定であるが、自分のてんかん発作等について知っておくべきこと、現場実習先の約束事、自宅や学校・主治医等の緊急連絡先、などを想定している。

特に集中訓練等は設けずに、毎日の活用の中で般化させるようにしている。

(イ) 授業場面における M-ワークサンプルの活用

主に「自立活動」及び「作業学習」と呼ばれる授業時間に活用している。

一般に学校現場では、教室において複数の児童・生徒を対象に授業展開がなされているため、トータルパッケージを活用するには、人数分の物品の用意や個別の支援の確保等、一斉授業の形態においては実施が困難な側面もある。

従って、個別の対応が可能な「自立活動」を中心に展開することが最も適した活用方法ではないかと考えている。

①コミュニケーションスキルをターゲットにプラグタップ組立課題を実施した事例

コミュニケーションスキルに課題がある生徒に対し、MWS 実務課題の「プラグタップ組立課題」を自立活動の時間に実施した。（週 1 回 2 単位時間、現在まで 20 回実施）

「自立活動」について学習指導要領では、障害状態等の把握に基づき、指導目標及び指導内容を明確にし、個別の指導計画を作成するものとされている。本事例では支援目標を個別の指導計画に掲げ、それに基づいた支援を行っている。

実施方法は、トータルパッケージの訓練室にて 1 対 1 で対応している。「作業指示書」「指示カード」等により、できるだけ生徒自らが作業手順を確認したり、気づいたりする部分を支援の重点とし、セルフマネジメントスキルの向上を最終的な目標とした。

(a) 対象者 1－A 男性 高等部 1 年（当時）

(b) 本人の状況

・コミュニケーション面、特に言語表現が基本的に苦手で、自発的な報告・質問に課題を有している。情緒面は安定している。

- ・左半身に軽度の麻痺があるため、細かい作業は苦手。
- ・一桁の加減算は可能。
- ・ひらがな、カタカナの読み書きは可能であるが、意味理解が難しい。

(c) 支援目標

- ・コミュニケーションスキルの向上を図る

状況に応じたコミュニケーションができるよう、特に困難場面や報告場面を中心に支援する。併せて、最後まで言葉をはっきり言うことを意識させる。理解していないことを「わかった」と答える傾向があ

るので、質問することについても認識させたい。

・作業の手順や方法を理解して取り組む（作業の遂行）

分かりやすい作業設定・説明をする。適切な助言をする。作業指示書等による対応を試みたい。

(d) 支援結果

・コミュニケーションスキルについては、まず困難場面や報告場面での言葉による表出を目標にしてきたが、概ね出来るようになってきている。支援者が交代しても再現されていることから、ある程度般化されているものと思われる。

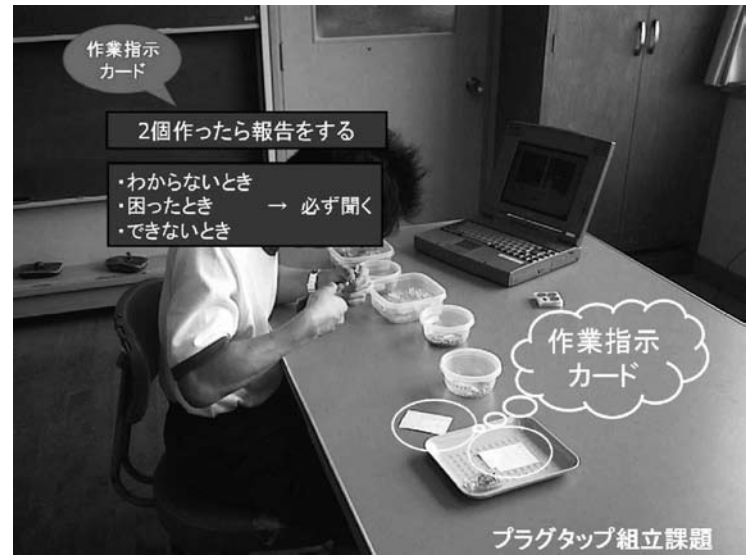
・作業遂行に関しては、作業指示書（図 2－1 3）や作業指示カード等（図 2－1 4）の活用により、概ね出来るようになってきている。作業指示書を事前に用意しておく、支援者が到着する前に、必要物品の準備と物品の有無についてもチェックをしていた。「自分で準備ができるようになった」と嬉しそうに報告がある。さらに「いちいち言われなくても出来る方が良いと思っている」

と述べるなど、自ら責任をもって遂行したいという思いが生じてきている。これらのことから、セルフマネジメントスキルの向上が見られていると捉えてもよからう。

■プラグタップ組立課題 指示書《Level 3》

作業日 年 月 日						
作業の目的 いくつかの部品からなる電気プラグなどをドライバーを使って組み立てる作業です。一人ひとりが組立から完成まで、責任を持って正確に組み立てることが求められます。						
準備するもの ☐ ソケットの部品（ ☐ ソケット本体 ☐ 丸線ねじ ☐ ソケットふた ☐ 六角ナット ☐ 丸線ねじ） ☐ 電動ドライバー ☐ ストップウォッチ ☐ トレイ（皿） ☐ 鉛筆						
作業の準備 ☐ 1 準備するものに従って、必要なものをそろえる。 ☐ 2 ソケットの部品を順番にならべる。 ☐ 3 2ができたなら報告をする。「準備できました。」						
作業の開始		1回目	2回目	3回目		
1 ストップウォッチで時間を計りはじめる。		☐	☐	☐		
2 「今から、ソケットの組み立てをはじめます。」		☐	☐	☐		
3 ソケットを《 》つ組立てる。		☐	☐	☐		
4 ソケットを《 》つ組立て終わったら、ストップウォッチを止める。		☐	☐	☐		
5 ストップウォッチの時間を記録する。		☐	☐	☐		
6 ソケット組み立て終わりました。点検をお願いします。」		☐	☐	☐		
時間の記録						
個	1回目 分 秒		2回目 分 秒		3回目 分 秒	
今日の反省をしましょう						
1 自分で準備ができた				○	△	×
2 決められた数だけ組み立てができた				○	△	×
3 困ったとき、相談ができた				○	△	×
4 報告や相談がきちんとできた				○	△	×
5 働く態度で作業に取り組めた				○	△	×

図 2－1 3 プラグタップ組立課題の指示書の一例



レベル 3 のソケット組立を行っている場面である。
写真左上に示した「作業指示カード」が手元にあり参照している。
また、右上の PC により、組立のビジュアルマニュアルを参照している。
タイマーにより、作業時間を計測している。

図 2－1 4 実際の支援場面（左写真）

②文書入力課題をカスタマイズし、知的障害を伴う自閉症の生徒に実施した事例

中度の知的障害を伴う自閉症の生徒に対し、MWS の OA 課題「文書入力課題」を、作業学習「ワープロ」の時間に実施した。（週 2 回 2 単位時間、半年間実施）

実施方法は、Windows[®]パソコン（すべてに OAWork Ver.2 と WCST がインストールされている）が 8 台設置されている情報教室にて、支援者が生徒の隣に位置する形で行った。課題の内容は対象者に合わせてカスタマイズし、LAN で対象者の操作するパソコン内の該当フォルダにアクセスし、適宜差し替えを行った。このようにすることで、対象者の操作を中断することなく、タイムリーな課題による支援を継続できる。

トレーニングモードで作業結果が即座にフィードバックされるようにした。平易な漢字仮名交じり文であるが、意欲的に取り組み、毎回正答している。後半では、正答時手をたたいて喜ぶ等、自らを賞賛する場面がみられるようになった。これは作業結果に対するセルフマネジメント行動の一つであると捉えている。

(a) 対象者 1－B 高等部 2 年（当時）

- ・知的障害（中度）を伴う自閉症

(b) 本人の状況

- ・ひらがな、カタカナの読み書き、小 1 ～ 2 年程度の漢字の読み取りが可能。
- ・作業的なことは不得手で、作業の継続には声かけや指示が必要。
- ・始めに課題に対する理解や納得が必要で、充分でない場合スタートに時間を要する。
- ・課題の場面変化時には、タイムリーな声かけや視覚的支援があるとスムーズである。

(c) 支援目標

- ・文字の認識力の向上と、作業及びその継続に対するセルフマネジメントスキルの向上

(d) 支援準備

【用意した課題】

- ・「文書入力課題レベル 1」の文章を全てカナ表記にした課題。
- ・幼児から小学校低学年児童向けの絵本の文章。漢字かな混じり文であり、文字数はレベル 1 の 2 倍程度の 40 文字から 50 文字程度である。（例 1）

【例 1】

「ナイチンゲールさんがきてから、たすかる病人がおおくなったよ」

「まったくてんしのようだ」

夜になると、フローレンスは、ランプをもってひとりひとりにこえをかけ、はげしました。

おかげで、くるしんでいる人も、きもちがあかるくなり、だんだんげんきになっていきました。

ところが、いそがしくはたらきすぎたためにフローレンスは病気になって、たおれてしまいました。

でも、フローレンスは、病気がすこしでもよくなると、すぐに病院にもどってはたらきました。

これをきいたイギリス兵たちは、フローレンスを「クリミアのてんし」とよび、かんしゃの手紙をかきました。

・生徒が口ずさんでいる子供向けテレビ番組挿入歌の歌詞。すべてひらがなで表記されたものと、漢字かな混じり文の 2 種類を用意し、文字数はどちらもレベル 1 と同程度の 20 文字から 35 文字程度である。（例 2、例 3）

【例 2】

のりもの あつまれ いろんな くるま どんどん でてこい はたらく くるま
 こうつうあんぜん まもって パトロールカー（パトロールカー）
 どうろのほこりに みずまき さんすいしゃ（さんすいしゃ）
 ひこうきのりおり かいだん タラップしゃ（タラップしゃ）
 やきゅう マラソン テレビちゅうけいしゃ（テレビちゅうけいしゃ）
 いろんな くるまが あるんだなあ いろんな おしごと あるんだなあ
 はしる！ はしる！ はたらくくるま！

【例 3】

乗り物 集まれ いろんな 車 どんどん 出てこい 働く 車
 交通安全 守って パトロールカー（パトロールカー）
 道路のほこりに 水まき 散水車（散水車）
 飛行機乗り降り 階段 タラップ車（タラップ車）
 野球 マラソン テレビ中継車（テレビ中継車）
 いろんな 車が あるんだなあ いろんな お仕事 あるんだなあ
 走る！ 走る！ 働く車！

【課題遂行時の手続き】

・課題遂行時に、フィードバックのグラフィック画面（○印）が表示される頻度を上げるため、初期設定時よりも数値を低く設定した（試行数 1 / ブロック数 3 等）。

この設定により、比較的高い頻度でフィードバックが与えられるため、課題遂行における動機付けの高まりを促すことに有効であろうと意図したためである。（図 2-15）



図 2-15 課題画面と正答時のフィードバック

(e) 支援状況

【導入時の状況】

・『訓練者選択画面』において自分を選択すること、課題文を声に出して読むこと等が観察された。